

建学の精神		豊かな特性と広く深い学識を持ち、世界的視野に立つ心身ともに明るく健康的な紳士・淑女を養成する。					総合評価
教育理念		建学の精神に基づき、時代の要請に対応し、現代社会に貢献でき得る人間育成に努める。学を修め、礼節を重んじる心豊かな品位のある生徒の育成に努める。					
めざす生徒像		目標を高く掲げ、自ら考えて積極的に行動できる子ども。自他の生き方を尊重し、互いを理解し合おうとする子ども。					
学校教育目標		(1) 学業に専念する姿勢を育て、豊かな知性と教養を身に付けさせる。 (2) 高い目標をめざし、自ら考えて何ごとにも挑戦しようとする心を育てる。 (3) 自他を敬愛し、自ら進んで社会に貢献しようとする意欲を育てる。 (4) 礼節を重んじ、品位を養い、誠実で寛容な態度を育てる。 (5) 生命を尊び、自然を愛し、崇高なものに感動する心を育てる。					
昨年度の成果と課題		本年度の教育目標			具体的目標		B
[成果] ・校内ICT化の推進 ・探究活動の充実 [課題] ・前期課程から後期課程への充実した接続		(1)自ら考えて、何ごとにも積極的に挑戦しようとする態度を育てる。 (2)礼節を重んじ、他を受け入れる誠実で寛容な態度を育てる。			・基礎的な知識・技能を身に付け、自ら考えて体験をしたり、表現したりする活動を通して、知識・技能を確実にしながら、主体的に学ぶ態度を身に付けさせていく。 ・礼節を重んじ、自らの品性を磨くとともに、他者の生き方・考え方を理解し、互いにより良い社会の構成員として成長しようとする意欲をもたせる。		
分掌・学年	評価項目	具体的方策	評価指標	自己評価	成果と課題(評価結果の分析)	課題の改善方策等	学校関係者評価
教務部	年間教育・行事計画の教育効果を伴う立案 教育計画の円滑な推進	・教育効果の上がる年間教育計画及び月間教育計画の企画・立案・調整の工夫	・教務部会・教科会議・主任会議・企画会議・職員会議・教育課程検討委員会それぞれでの検討結果を教育効果という視点を考慮して、各計画に反映できたか。	A	・各分掌や各学年と生徒の視点を考慮して調整を行い、概ね実施できた。更に綿密な調整を図り、より効果的な教育計画の作成に向けての検討を重ねる。	・年間教育計画作成時に各分掌と更に綿密な連携を行う。また、大学入試改革・新カリキュラムに向けて、探究学習の更なる充実を図る。	A
進路部	完全6年中高一貫教育の特色を活かした進路指導を推進する。	・個々の生徒に応じた進路指導を学年間で密接に連携を取りながら推進する。	・多様な受験方式で国公立大学、難関私立大学への合格者を全体の30%以上にする。	A	・進路部と学年間との取組により、国公立大学合格者18名をはじめとして、概ね数値目標が達成できた。	・難関校合格に向けて、大学入試問題の分析と各教科指導における意識改革を学校全体で進めていく。	A
生徒部	生活習慣の確立と規範意識の向上	・毎朝の登校指導、中等4年生による週番活動を実施 ・毎月全校集会終了後、身だしなみチェック(服装・頭髪・衛生)を実施	・登下校時校門での一礼や自発的に挨拶ができていないか。身だしなみチェックでは指導される生徒がいないか。不注意による遅刻はないか。	B	・校門での一礼は形骸化している。登校時、前期課程の挨拶に元気がなく、自発的にできていない者も少ない。不注意による遅刻は減少している。	・HRや全校集会で校門での一礼の意義や挨拶の大切さを伝える。身だしなみチェック時に整った状態でチェックを受けられるよう事前に各HRのアナウンス・指導を徹底する。	B
文化図書部	文化行事を通しての同学年間の交流及び他学年間での交流の促進の端緒の創出	・文化祭にて各クラスが出店していた模擬店を学年単位での出店に変更した。また、合唱コンクールの校歌の部門を、1～5年で縦割りにし、紅白戦として実施した。 ・百人一首かるた大会においても上級生が下級生ができないことを手助けする機会を設けた。	・各文化行事において、他学年間での交流の機会の回数と交流の充実	B	・文化祭での合唱の準備では、合同練習の前にアイスブレイキングの活動を行うなどお互いを知らなかった生徒同士が交流するきっかけづくりを行うことができた。	・上級生が下級生の学習指導をしたり、体育大会での縦割りの活動の充実の模索など、他の分掌とも協力し、他学年間での交流を促進する。	A
保体美化部	心身共に健康な学校生活を送ることができる生徒を育てる 校内外の環境美化活動の推進	・学校管理下での負傷等による保健室来室者数を減少させるために、疾病や怪我の予防法などの情報発信に努める。また、体力向上を目指し、全学年においてスポーツテスト総得点を向上させる。 ・校内外美化のため、積極的に美化活動に取り組む意識を向上させる。	・保健室来室者数が前年度比10%減少できたか。 ・スポーツテストの総得点が前年度に比べて全学年で向上したか。 ・日々の清掃活動を意欲的に取り組むことができたか。	B	・行事(スポーツテスト・体育大会)での負傷者は、昨年度に比べ増加した。また、保健室来室者数は昨年度より11%減となった。スポーツテストの結果については、高校3年生女子以外は、昨年に比べ向上した。 ・多くの生徒が校内外の美化活動に意欲的に取り組むことができた。	・怪我の対策として、運動前、運動後における準備運動、整理体操を行うように積極的に促していく。 ・美化後の清々しさを振り返らせる機会を増やし、自発的に美化活動に参加しようとする生徒の意欲を高める。	C
入試広報室	入学生60名以上を獲得	・イベント(オープンスクール、チャレンジイングリッシュ、講演会、聖心入試チャレンジ等)、拠点(塾、保護者会等)、ツール(HP、聖心学園ニュース、学校案内、各種案内、ポスター、学校紹介プレゼンテーション、生徒等)の3本柱で効果的な募集活動を行い、入学生を増加させる。	①第1回、第2回オープンスクール60名以上の参加 ②第3回オープンスクール70名以上の参加 ③第1回、第2回聖心入試チャレンジ 合計140名以上の参加 ④塾対象入試説明会70組以上の参加 以上の入試広報行事の目標を達成しながら⑤入学生60名以上を確保	C	①達成(65組、63組)②未達成(44組)③達成(144名)④未達成(50組)⑤未達成(入学者56名) ・入学者は平成31年度入試の31名から今年度入試の56名に増加するが目標には届かなかった(目標達成率93%)。	①塾への訪問の回数を増やす。②個別指導塾、個人経営塾への新規開拓、案内継続。③育友会等の活用。④イベント準備をさらに早い時期に行い、一か月前には完了する。	C
人権教育委員会	生徒参加型人権HR活動の充実	・身のまわりの差別や社会における人権問題について、生徒自らがその課題に気づき、解決に向けて合意形成を図るため、生徒参加型のHR活動等を実践する。	・自らの気づきや課題解決に向けた考えを互いに発表する機会を設け、それを評価しあうHR活動等を全クラスで実施できたか。	B	・生徒体験型活動を中心に据えることで、能動的な学習を行うことができ、生徒は他者の考えを知り、自己の考えに取り入れることができた。ただ、時間の制約があるので発表や質疑応答が十分にいけない点が課題として残った。	・年間教育計画上、学習に多くの時間を割くことは難しい状況であるため、入念な計画と準備を行い、限られた時間で学習がスムーズに運ぶように努める。	C
渉外委員会	第1回・第2回の各保護者会の出席率の向上	・文書の配布などにより、事前に参加を呼びかける。 ・第2回保護者会は、保護者の関心が高い食育について、本校の生徒の実態調査を踏まえ、より具体的な内容で講演会を実施する。	・第1回・第2回の各保護者会ともに出席率50%を上回ること。	C	・第1回保護者会の出席率は約50%。教育方針の説明等に対する保護者の関心の高さにより一定の出席者数があったと考えられる。 ・第2回保護者会は、近年関心が高い「眠育」に関する講演会を計画したが、日程が合わず頓挫。その後、養護教諭の協力を得て、「食育」をテーマに、本校生徒の実態調査を実施していただいた上での講演会を引き受けていただいた。保護者の関心は高いであろうと考えたが、結果的に出席率は20%弱と昨年度より約10ポイント低下した。	・令和2年度は第2回保護者会を実施しない旨、決定した。 ・(第1回)保護者会については、なるべく早く案内を配布したい。	B
1年	基本的な生活習慣を身に付け、規則を守って学校生活を送る	・予鈴の合図を守り、次の授業の準備をしておくこと。 ・大きな声でしっかり挨拶ができること。 ・提出物の期限を守り、丁寧に取り組むこと。	・生徒が基本的な生活習慣を身に付けるために、学年教員が一丸となって個々の生徒への指導に取り組めたか。	B	・注意を受けることで、自らの行動を反省し、より良くあろうとする生徒が増えていったが、予鈴の合図を守れない生徒、提出物の期限が守れなく、内容的にも問題がある生徒が特定してきた。	・各教科担当の教員にも協力してもらい、生徒の取組が積極的になるよう、個々の生徒の指導を大切にしていこう。	B